

リアス・アーク美術館での開催にあたって

気仙沼市と名古屋市は、東日本大震災の復興支援のため名古屋市から職員を派遣したことがきっかけで縁を結び、一昨年の11月には、東日本大震災の記録と教訓を伝えるため、リアス・アーク美術館常設展示資料の一部を名古屋市中で展示し、多くの名古屋市民にご覧いただくことができました。

今回は、過去に名古屋市を始め東海地方に大きな被害をもたらした、昨年その襲来から60年を迎えた「伊勢湾台風」の教訓を伝えるため、名古屋市がその資料を収集・編集

し、気仙沼市を会場に本展を開催することになりました。東北地方はこれまで風水害の経験が比較的少ない地方でしたが、平成27年9月の関東・東北豪雨や昨年の東日本台風をはじめ、近年では大きな被害をもたらす風水害が増えてきています。

名古屋市の教訓が、皆さまの一助となれば幸いです。

【伊勢湾台風から60年を迎えた名古屋市での企画展の様子】



[名古屋市港防災センター]



[名古屋市博物館]

伊勢湾台風について

1959年(昭和34年)9月26日、紀伊半島の南端・和歌山県潮岬に上陸した台風第15号は、伊勢湾岸の高潮により東海地方に大災害をもたらしたことで、「伊勢湾台風」と命名され、1934年(昭和9年)9月21日の室戸台風、1945年(昭和20年)9月17日の枕崎台風と並び、「昭和の三大台風」と呼ばれています。

その中でも伊勢湾台風の被害は明治以来最大の台風被害となり、これを契機に「災害対策基本法」が制定されるなど、日本の防災史に大きな影響を与えました。

紀伊半島を縦断した後、いったん日本海へ抜け、再び東北地方に上陸したこの台風による犠牲者は全国32道府県に及びました。死者・行方不明者は5,098名で、その多くは、高潮の発生によって愛知・三重の2県に集中しました。

	死者・行方不明者	全壊・流出	半壊	床上浸水	床下浸水
全国の被害(※1)	5,098名	40,838棟	113,052棟	157,858棟	205,753棟
名古屋市の被害(※2)	1,851名	7,723棟	43,249棟	34,883棟	32,469棟

(※1)消防庁,2020,「消防白書」より、(※2)名古屋市,1961,「伊勢湾台風災害誌」より

